



Our Trip to Cowra & Canberra 20 - 25 April 2010

ブルーマウンテンズ、ジェノラン鍾乳洞

待ちに待った旅

- 4時起き
- ミニバス、ドライバ―はMr. Gavin
- Blue Mountains はなぜblue
- 標高1190m
- Echo Pointの絶景
- 魔法にかけられたThree Sisters
- 100年でたった1cm
- Cowraまで320km
- Caravan Park
- Milky Wayと流れ星
- 平和の鐘
- みんなで作った夕食は最高
- Happy Birthday, Mr. Kolokossian
- Cowraの人々から受けた歓迎
- 荒涼とした収容所跡地
- 緑が瑞々しい日本庭園
- 試乗した戦車
- 自炊は楽しいでも大変
- 初めて泊るキャラバンパーク
- お天気最高

窓からの景色は日本とはまったく違い、とても広い草原に牛や羊などがいてのどかでした。(Taiki)

Echo Pointの展望台から見下ろしたら、地面が樹木で埋め尽くされていてこんな見たことがないと感動しました。一番すごいと思ったのは、Three Sisters。ただの岩だけれど、伝説のストーリーを聞くと、wow! 3つの岩がまだ心を持っているような気がしました。(Anna)

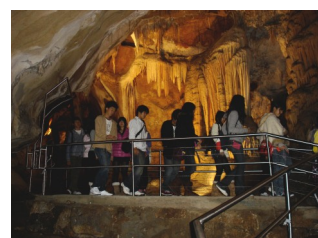
Jenolan Cavesでは、クリスタルが1cm伸

びるのに100年かかると聞き、私の中でクリスタルのイメージが180度変わりました。それまで、変な形としか思っていなかったクリスタルが、とてもすばらしいものに見えてきました。(Mayu)

広々とした緑が広がり、動物がたくさんいました。広大な土地は、アフリカのサバンナを思わせませす。空は澄み渡り、すばらしい陽気に、自然にため息が出ました。Stalactiteは、上からできる透明鍾

乳石、stalagmiteは、下から盛り上がってくるもの。その形成の時間の長さを知って、自然のすごい力を感じました。そして、この美しい自然を次の世代に残すことの大切さを感じました。(Mako)

電気がない時は真っ暗な洞窟。発見した人はこれをろうそくだけでたどったというのを聞き、とても驚きました。自然の力のすごさを改めて実感しました。(Moeka)



カウラ、日本庭園、墓地、収容所址

日本庭園では、一瞬、日本に戻ったような気がしました。カウラ一帯が水不足でも、この庭園を残るために頑張っている市民の人々がいることを思うと、本当にすばらしい場所だと思いました。(Yukino)

日本に昔から伝わる物がたくさん展示しており、オーストラリア人が着物を真剣に見ていたのが、ぼくは少し嬉しかった。池にはコイがいてちょっとなつかしかった。(Taiki)

戦争の悲惨さを再び考えさせられました。産まれて数ヶ月の子供のお墓や

Cowraの脱走事件の時に亡くなった方々のお墓。国のために、家族の顔に泥を塗らないためにと偽名を名乗り亡くなっていった人々。もし、自分のお父さん、お兄ちゃん、弟がそんなつらい思いをして、しかも家族の知らないうちに亡くなってしまうようなことがあったら、と考えたらとてもつらくなりました。だから、今が平和であることを感謝し、冥福をお祈りしてきました。お花は、山口まさひろという方のお墓に置かせてもらいました。その方は、脱走事件の時に亡くなった方です。本名が山口かどうか

日本人墓地はとてもきれいでした。日本人のお墓を作ったというオーストラリアの人々の心の広さを考えるにとても感動しました。名前のない日本人の墓に花を供えました。名前がないってことは誰かわからない、だから、花を供えられる回数が少ないだろう、と思ったからです。(Taichi)

博物館には色々な物が置いてあってびっくりしました。日本刀や銃がたくさん置いてあって、どうやって集めたんだろうと思いました。(Tsubasa)



Our Trip to Cowra & Canberra

お墓参り、Bruceさん



16歳の誕生日、Bruceさんの世界観はくつがえされた。81歳の今、その日からのことを、そして、世界の平和の大切さを声を震わせて語ってくださる。その声は私たちの心に深く響いてくる。

夜空全体に大きく流れる天の川、肉眼でははっきりと見える。兵隊さんたちも、遠い日本の故郷や家族を想う心を、そして、家族の無事を祈る願いを届けて欲しいと、毎夜、星に託していたのだらう。

わかりませんが、同じ苗字であるところにひかれ、お祈りしました。その時に亡くなったオーストラリア兵4名の冥福もお祈りしました。現実を目の前にしてつらいことばかりでした。でも、それが実際に起こったことだということを私たちが受け止め、二度と起こらないようにしなければならぬと思います。敵国であった兵士たちのお墓を造ってきれいに掃除してくださいました。Cowraの人々に感謝しました。(Yukiko)

ブルースさんにお礼の言葉を使うとき、ブルースさんは泣いていて、平和であることを

カウラの夜空

バスを降りた瞬間、呆気にとられました。生まれて初めてあんなにキレイな星空を見ました。空一面に星がちりばめられていて、流れ星もたくさん見ることができ、本当にうれしかったです。(Moeka)

Cowraで見た星はとてもキレイでした。最後の最後まで流れ星を見ることはできなかつ

た、この名前を忘れることはないでしょう。オーストラリアという異国で亡くなった日本人兵士のお参りに留学中の来れることは、とても貴重だと思います。(Yukino)

本当に色々かんがえさせられました。日本人の脱走兵のことやオーストラリアのこと、戦争のこと、そして、今、どうして自分がここに居るか。戦死した兵士たちのことは、「おかしい」とか「どうしてこんなことが起こった」とか最初は考えましたが、でも、僕たちは、今、この人たちの上に立っている。「戦争」や「犠牲」があったらこそ、僕たちはこうして生きていられる。だから、これから目を逸らしたり、否定したりしては

たけれど、たくさんのキレイな星が見られ感動しました。月の形が日本と反対だということも感動だったし、沈むのがとても早かったです。(Eriko)

きれいだとは聞いていたけれど、ここまですごいとは思ってもしなかったのも、とても感動しました。(Shiori)

いけないと思う。僕がしなければならないのは、真正面から向き合って、けって忘れてないことだと思います。(Takuto)

一番心にしみた場所は、日本兵と少数のオーストラリア兵が眠っているお墓です。墓石に刻まれている名前や日付をみて、偽名なので親族はこの人がここにいることを知らないんだろうな・・と思った、この人が大脱走に加わっていた一人なんだったかと思ったりしました。あの墓地にはたくさんの方が眠っている、でも、そのほとんどの人が身内に伝わっていないと思うと悲しくなりました。心をこめてお祈りをしました。(Anna)

望遠鏡で見なくても、空気がきれいで、ビルがなく、草原なので暗くて、たくさんのきれいな星が肉眼で見えた。望遠鏡では、月が大きく見え、火星や土星もはっきりと見ることができた。流れ星もたくさん見えて嬉しかった。カメラではうまく星空を写せなかった。(Taiki)

Cowra High School, Bilyara Retirement Village



サダコチームのパワーポイントや紙芝居を見てとてもびっくりしました。わかりやすくまとまっていたし、何よりも、英語を丸暗記している人もいて、努力がとても伝わってきました。私も千羽鶴が完成してとても嬉しかったし、Cowra High Schoolの生徒の人たちもとてもいい子たちでした。(Saine)

千羽鶴を渡すとき、とても喜んでくれたので頑張ってたよかったです。(Yukiko)

おじいちゃん、おばあちゃんがとても仲良くしてくれて嬉しかったです。ゲームをしている間も、ずうっと笑顔を見せていたくれ、私も笑顔でいられました。質問をたくさんしてくださったので、話も弾みました。(Yukino)

カウラでは、いろいろな所に街の人々が平和を願う気持ちや伝わってくるものがあり、とてもあたたかい町でした。本当に田舎で平和な町なので

昔、そんなことがあったことなど信じられないくらいでした。出会った人々もとても優しく私たちに接してくれ、老人ホームに行った時も、耳が悪いにもかかわらず、私の話を一生懸命に聞いてくれました。カウラの人だけでなく、オーストラリアの人々は、日本の人々に対して優しい人が多い、人を助けることが好きなんだと、私はオーストラリアに来て学びました。(Saine)



カウラ・キャンベラの旅

美しい人造都市Canberra

キャンベラはすばらしく美しい都市です。この年、Burley Griffinという人の設計でできたなんて、大きな驚きです。

(Mako)

国会議事堂から見た戦争記念館までの赤い道路と建物がとても美しかったです。これがまさしく国の象徴なのだと思います。こんなにきれいでした。

(Anna)

Mr. Ainslie の展望台から眺めた景色はとてもすごかったです。裏山をみんなまで下ってまた登ったのは、とても疲れたけれど楽しかったです。でも、兵隊たちが重い荷物を

持って山道を歩いた（パプア・ニュー・ギニアのKokoda Trail - ココダ山道- の一部の復元）というのを聞いて悲しくなりました。(Shiori)

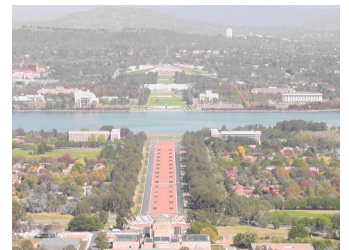
トリップを通して、様々な記念館、お墓などに行きました。Japaneseという文字がたくさんありました。私がカウラの脱走事件を知ったのは、オーストラリアに来てからです。それだけでなく、日本にいるときは、戦争のことについて、まったく何も知りませんでした。キャンベラの戦争記念館を回っているとき、「なんで日本人のことなのに、今まで知らなかったのだ

ろう」と思いました。カウラのことについてももっとたくさん日本人に知ってもらいたいと思ったし、知る必要があるんじゃないかと思いました。(Moeka)

強く感じたことは、日本とオーストラリアの戦争に対する重要性の大きさの違いです。オーストラリアのParliament House (国会議事堂)の直線上にWar Memorial (戦争記念)があります。私は、これを「この戦争で亡くなった人々に感謝し、この人々のおかげで今のオーストラリアがあり、決して忘れてはいけない人々だ」と意味し

ているのではないかと思いました。政治にまで反映されていて、とても驚きました。日本は、世界で唯一の被爆国です。もちろん戦争に対してたくさんの冥福が祈られてきています。しかし、オーストラリアの戦争で亡くなった人々を想う気持ち、戦争を嫌う気持ちはそれ以上に大きいし、心だけでなく、物で表現しているのだと感じました。

(Saine)



国会議事堂、国立博物館、Questacon

アボリジナル文化を学びに博物館に行きました。そこには、とてもたくさんの資料が置いてあって、とても参考になりました。その次に湖が近くにある建物に行きました。そこには、過去のオーストラリアの首相全員の写真が飾ってありました。キャンベラの歴史の資料がありました。

(Tusbasa)

オーストラリアの文化についてたくさんものがあった。もちろんアボリジニーのものもあった。ぼくはオーストラリアのスポーツの歴史を見た

りした。未来の物もあり、楽しかった。(Taiki)

サイエンスについての展示がしてあるところでした。私は理科がとても好きなので、本当に興味があるものばかりで、中に入って、1つ1つのものを楽しみました。特に好きだったのは、写真を写すと、影が壁に浮かび上がるもので、オーストラリア人の子供達とたくさん遊びました。ランチを食べる時も、横に声が遠くまで聞こえる仕組みの物があってとても楽しかったです。(Saine)

いろいろな現象を再現するおもちゃや道具がたくさんあってとてもおもしろかった。サッカーの友達にキャンベラに行ったと言うと、「クエスタコンは行った？」と聞かれた。やっぱり、有名などころなんだなと思った。(Taiki)

Parliament Houseはとても大きくてしかもキレイでした。色が赤や緑で統一されていました。(Qでは)たくさん不思議な体験ができました。空気だけで音が出るピアノとか、変な型に見える鏡、ブラックホールなど、とてもおもしろかったです。(Mayu)



戦争記念館

戦争記念館は、戦争のことを学ぶにはとても重要な場だと思いました。戦争とはなんと残酷なものであるかを再び痛感しました。ポピーが兵士が流した血を象徴していること、そして、命の再生なのだということを知りました。戦争記念館はとても特別な場所でした。(Mako)

14歳の若さで戦争に行ったMartinさんについて知りました。戦争に行ったすべての人の名前が刻まれている、すごいと思いました。無名の兵士の人たちの場所もあって、戦争について貢献した人たちへの感謝が表れていると思いました。(Hiromasa)

目をそらせたくないようなことばかりでした。WWIについての馬の話は耐えられませんでした。自分を守ってくれて一緒に生き抜いた馬を(検疫のために)殺すことがどれだけつらかったろうと。戦争はたった数人の人の声から始まり、人間だけでなく動物にまで関係していたんだと思う

と、決して同じことがあってはならないと再び思われました。14歳の少年は、どんな気持ちで戦場に行ったのだろうか、なぜそこまでしたのか。ポピーやローズマリーの意味する言葉も私の心に強く響きました。(Yukiko)

Our Trip to Cowra & Canberra

ANZAC Day, ANZAC Ceremony

とても印象深かったのは、色んな人が花輪を捧げた時です。私は、この時改めて戦争は絶対にはしてはいけないものだと思いました。(Tusbasa)

私のイメージはもっと静かな式だと思っていました。日本ではない、国のあのような式に出ることができて良かったです。(Moeka)

お天気に恵まれました。思っていたのとは違って、たくさんのパレードがありました。軍隊のは、みんなの動きがびったりでかっこう良かったように思います。最後に飛行機が3機飛んだのに驚きました。この式典に参加できて良かったです。(Eriko)



今回の旅は、本当に良かった。新しい経験やとても貴重な体験がたくさんできました。僕は、今回の旅のことを決して忘れることがないでしょう。(Takuto)

みんなで作った晩御飯は、とてもおいしかったです。(Tsubasa)

この6日間でたくさんのことを学びました。みんなと協力することの大切さや先生たちのありがたさもわかることができました。(Shiori)

学べるのがたくさんあったし、良い思い出もたくさんできました。これからもっと詳しく戦争やオーストラリア、世界のこと、そして、母国である日本について知りたいと思いました。(Moeka)

怖かったり、疲れることもあったけど、いろいろな事を体験できて、知ることができ、中身の詰まったtripだったな~と思います。(Miyuki)

とても楽しい時間を過ごすことができました。毎日たくさんのことを教えていた

兵隊さんたちは、とてもきびきびしていたし、国に対しての態度がすごくかわられていて、自分たちの国をいかに大切にしているのかが伝わってきました。日本にも大切にすべきこと文化がたくさんあるのに、野放しにしている部分があります。やっぱり、自分たちの国には誇りを持つことが大切だということ学びました。(Hiromasa)

アンザック式典に参加できたことは、本当に本当に幸運なことでした。とても感動しました。この日のことは決して忘れることがないでしょう。家族にも友達にもこの話をしたいです。(Mako)

「不謹慎だから居眠りは絶対しないように」という先生の忠告があり、ちょっと大変なところに来てしまったのではないかとプレッシャーがありました。Prime Minister (首相)たちが座ってCeremonyが始まりました。パレードとか花輪を供えたりして、あつと言う間にceremonyが終わってしまった感じがしました。しかし、たくさんの方が亡くなったということを知りながら参加しないとイケないんだと思い、忠告の意味を理解しました。(Taichi)

日本の首相にさえ会ったことがないのに、ここに来て3ヶ月で首相に会えたことに感動しました。(Miyuki)

ANZAC Ceremonyでは終始、感動しっ放しでした。(Takuto)



き、ありがとうございます。最後の夜にいただいたコアラとしおりを大切に使用します。今回学んだことを、今後、いろいろなところで活かして使っていきたいと思えます。もっともっと学んだり、考えたりして、自分の意見をしっかりと持ち主張していけるようになりたいと思えます。ICETは本当によいチームだと改めて感じることができました。(Eriko)

たくさんのお話を学ぶことができたし、たくさんのお話を聞いて良かったです。Tripにそなえて勉強したことも知らないことばかりでビックリしました。自分の星座のさそり座を始めて見るのができ、その大きさにびっくりしました。この6日間でたくさんのお話を学べたし、体験できたし、とってもいい旅行になりました。(Mayu)

アンザック式典に参加できたことは、本当に幸運なことでした。とても感動しました。この日のことは決して忘れることがないでしょう。家族にも友達にもこの話をしたいです。(Mako)

産まれて初めて台所や冷蔵庫をshareするホテルに泊まり、そういう造りに驚きを隠せませんでした。すべての材料に名前を書いても無くなったり、思うように料理ができなかったり大変でしたが、そのぶん、いろいろな国の人に出会って、あいさつ程度でも話ができたり、自分が料理したいからと一人で鍋を占領してはいけないということ第三者として見てよく理解できました。常に周りに気を配ることの大切さをキッチンに立ってみて気付くことができました。(Yukiko)

このTripに行くことができて本当に良かったです。貴重な体験をたくさんすることができ、実体験をしたことのある方の話を聞くことができ、学習したことが起きた実際の場所に行くことで感じとるものがあり、とても良い勉強になりました。この1週間は、とても楽しいことばかりでした。(Yukino)

先生たちにも感謝しています。(生徒一同)

It was my great pleasure to be able to accompany our current ICET students on the recent Cowra/Canberra excursion. Previously I've not had time to do this, but now that I have retired from the role of Principal at Blacktown Girls High School I have a little more freedom. My job was to drive the bus and I enjoyed doing this. It was good to be able to share interesting learning experiences with the students from the startling aspects of the limestone caves at Jenolan Caves, through the history and tragedy of the Japanese prisoners of war breakout at Cowra, to participation in the ANZAC ceremony in front of the Australian War Memorial in Canberra.

I'm sure the students found the excursion at times fascinating, at times confronting and at other times perplexing. Nonetheless I compliment them on the way in which they engaged with the experiences.

65 years when World War II ended, seems like a long time ago. Even further ago was the battle at ANZAC cove. Yet memories linger. Some good, some bad. It is difficult for young people of today to understand the depth of feeling that still exists about wartime events. This is natural and reflects the privileged positions that Australia and Japan find themselves in compared to many other countries which are experiencing the tragedy of war and conflict. For a progressively smaller number of people in both our countries, wartime memories (WWII) are still quite vivid. But yet I believe that what our students took away with them after the excursion was something deeper and fundamental to maintaining peace in the future.

I believe that what they saw in Cowra impressed them with the humanity of ordinary people—the ordinary people of Cowra who helped the Japanese soldiers and who established in some cases lifelong friendships.

I hope that what they saw in Canberra at the ANZAC Day ceremony made sense to them not as a celebration of war, but rather the celebration of the making of an Australian nation and the recognition that many thousands of people made the ultimate sacrifice so that we could all be free”.

As I say so often, the past cannot be changed—but the future can be created. Everyone of these experiences adds to the mindset of our students as they head into their futures. International PEACE is the lesson we all must take from ANZAC Day Celebrations and the challenge of securing that rests with the young people of today all over the world. This is the reason we organise such excursions. Its up to you to take the message forward.

Edward G. Gavin
Director, ICET



カウラ、キャンベラへの旅に同行できたことを嬉しく思います。以前はこうした時間を持つことができなかつたのですが、ブラックタウン・ガールズ・ハイスクールの校長を引退してから、自由になる時間が持てるようになりました。今回の私の役目は、バスを運転することで、それを楽しみました。

ジェノラン鍾乳洞の驚くべき自然から始まって、カウラの日本人兵の悲劇的な脱走の歴史、キャンベラでの戦争記念館前でのアンザック式典の参加に至るまで、興味深い学習を生徒たちと分かち合うことができたのは幸いでした。生徒たちにとってのこの旅は、時に魅力的であり、時に心が落ち着かなくなるものであり、また時には、本当に驚くようなものであったと思います。そんな学習に本当に真剣に取り組んだ生徒たちの姿勢を高く評価します。第二次大戦が終わって65年、長い時間を感じられることでしょうか。ましてや、第一次大戦はさらに遠い昔のことです。しかしながら、記憶はなかなか消えてはいきません。戦争のことについて未だに存在する深い感情を理解することは、若い世代の人々には難しいかもしれません。当たり前です。しかも、紛争の悲劇を続ける他の国々と比較して、非常に恵まれた現在の日豪関係の中ではなおさらのことです。両方の国において戦時中の生々しい記憶を持つ人々は急速に減っています。生徒たちが旅の間に見聞したことは、未来の平和を維持する基盤となる深く大事なことであり、心に染み入るものだったと思います。カウラで生徒たちが心打たれた人道的なふるまひは、ごく普通の人によってなされた行為です。カウラのごく普通の人々が、日本兵を助け、そして、その中には生涯にわたる友情に発展したものもありました。

キャンベラのアンザック式典で観たものは、戦争を賛美しているものではなく、何千何万という人々が最も尊い犠牲を払ったことによって今日のオーストラリアという国があり、そして、われわれが皆自由でいられることに感謝するものであると生徒の目に映ったことを祈ります。私がよく言う言葉の中に、「過去は変えられない。でも、未来は創ることができる」という言葉があります。旅のひとつひとつの体験が、生徒の未来の心の基盤を作ることに役立つことでしょうか。国際的な平和は、アンザック式典からわれわれが学ぶレッスンであり、世界中の若者たちと一緒に確かなものとしなければならないチャレンジでもあります。

そのことが、この旅を企画する理由なのです。生徒が何をそこから未来に持っていくかは、生徒次第です。

ICET理事
エドワード・ギャビン

Canberra and Cowra 2010

The Cowra/ Canberra trip is more like a journey of personal growth, even though it is only a week long. This year, the students left Sydney excited about the possibilities of seeing some of the different parts of Australia, but returned having learnt a lot more about themselves.

The whole trip was a challenge for our students to come out of their comfort zone. The students challenged their knowledge of history by hearing Mr Bruce Weir tell his story about the escaped prisoners of war in Cowra and by visiting the Australian War Memorial in Canberra. They challenged their language barriers and their shyness by making a presentation in front of students from Cowra High School. They challenged the generational boundaries by making a visit to a nursing home in Cowra.

These were just a few of the activities the students took part in on this trip. Besides this, they all had the responsibility of making their own breakfast, lunch and dinner every day. Furthermore they had to shop for all their ingredients too!



On this journey I witnessed the ICET students of 2010 did more than just rise to the challenges set for them, they shattered the boundaries surrounding them before this trip and for this I am incredibly proud.

Well done

Jacques Kolokossian

わずか1週間ではあったものの、カウラ/キャンベラへの旅は、個人的な成長の旅となりました。いろいろなところに行けると生徒たちは喜び勇んでシドニーを立ちました。でも、実際には、考えていた以上に自分について学ぶ旅だったと思います。この旅の全部が、生徒にとっては、自分の心地よい居場所から抜け出なければならぬことを要求されるものでした。カウラでのMr.

Bruce Weirの話やキャンベラでのオーストラリア戦争記念館への訪問は、自分の歴史の知識を問われるものだったろうし、カウラハイスクールの生徒に向けてのプレゼンテーションは、言葉の障壁や恥ずかしい気持ち乗り越えなければならぬものだったろうし、ナーシングホームでのチャレンジは、世代を超えることでした。これらのことは、この旅において生徒たちが取り組んだことの一部でしかありません。このほかにも、毎日の食事を自分で作るだけでなく、その買い物までしなければならぬ責任がありました。この旅において私が見たことは、2010年のICET生たちが、要求されるチャレンジのレベルを引き上げたばかりでなく、旅の前に自分の周りにあった壁を突き破ることに成功したことです。そのことをすばらしく誇りに思います。

Well done!

ジャック・コロコシアン

毎年4月25日を中心にカウラ、キャンベラに行くことは、ICETの年中行事のひとつの柱になっています。それに合わせて、Global Issuesの授業の中では英語で第一次大戦から現在に至る流れを学び、CAPDの授業では日本語で第二次大戦からの日豪の関係を学びます。生徒のほとんどが、そう遠くない過去に日本とオーストラリアが敵として戦った歴史があることを知らないままに留学に出てきます。毎年2月から4月にかけて、オーストラリアのメディアには、第二次大戦、日本、戦争捕虜、に関する報道が頻繁に現れます。世界に出る若者がそうした情報が存在することを知る必要があると考えたことがカリキュラムにこれを入れるきっかけでした。でも、いつの間にか、毎年、カウラに眠る日本兵のお墓参りに行くこと、私たちの訪問を待ってくださっているブルースさんにお会いすること、千羽鶴を一緒に折ることでオーストラリアの若者たちに原爆の悲惨さを知ってもらうこと、そして、オーストラリアの国家が犠牲になった人々を追悼し感謝を捧げるANZAC Dayの式典の場において、同様に犠牲となった日本の兵隊さんや一般市民の人々の冥福を祈り、今の平和を感謝することが私自身のパッションになったようです。

生徒の皆さんが、どんなことを吸収し、どんなことを思い、どのように平和の維持に将来貢献していくのかは、それぞれの受け止め方により、そして、将来の機会の巡りによって違うでしょう。しかしながら、留学中にできることがあります。それは、過去を巡ってのオーストラリアの人々の心情を知ったことにより、オーストラリアの人々との交流や絆をさらに緊密に深め、現在、そして、未来における両国の友好な関係を個人ベースで築いていくことです。これは、留学生の皆さんの使命だといっているでしょう。

私がとても嬉しく思うことは、2010年の生徒たちは、みな、学ぶことに一生懸命だったということです。最初は恐々であっても、目をそむけたいことがたくさんあっても、段々と、もっと知りたい、知らなければ、たくさんの人たちに伝えたい、という気持ちを募らせていったことがよく見えました。自国に対する想いも深めました。この作文のコラージュも、そうした気持ちの変化や感動や、心や頭を巡るたくさんの想いを分かち合ってくれたからこそ、可能となったものです。

人生は一度だけです。それをどう生きるかは、個人の決定だけではなく、国の政治や時代の流れに大きく影響されます。兵隊さんたちは命を国に捧げました。今の日本とオーストラリアは、個人の夢や自由が最大限に生かされる素晴らしい環境にあります。ICETの留学生は、16歳にしてふたつの国の教育を受けられるさらに恵まれた環境にあります。思う存分にその環境を活用し、大いに学問や文化交流を楽しみ、心豊かな、そして、得る知識を上手に自分と社会の人々の幸せのために使える人に成長して欲しいと願います。それが、私がこの旅に託す皆さんへの想いです。

ICET校長 原田房枝



